



2019年7月31日

Audi TT 日本導入 20 周年記念 ”bauhaus 100 japan Talk Live”を開催

- 武蔵野美術大学名誉教授 柏木 博氏と、SWdesign 代表で元 Audi Design デザイナー 和田 智氏のトークライブ
- bauhaus (バウハウス) 創立 100 周年を記念した巡回展へのスポンサリング活動を実施

アウディ ジャパン株式会社 (本社：東京都品川区、代表取締役社長：フィリップ ノアック) は、プレミアムコンパクトスポーツ Audi TT の日本導入 20 周年を記念し、7 月 29 日 (月) Audi TT 20 years presents ”bauhaus 100 japan Talk Live”を開催致しました。一般参加者は 20 組 40 名の募集人数に対して 300 組を超える応募があり、非常に高い関心が寄せられたイベントとなりました。

このイベントには、デザイン評論家・武蔵野美術大学名誉教授でありバウハウス 100 周年委員会委員を務める柏木 博氏と、SWdesign 代表で元 Audi Design デザイナーの和田 智氏をゲストに迎え、100 周年を迎えたドイツの造形芸術学校 bauhaus (バウハウス) と日本導入 20 周年を迎えた Audi TT をテーマに、デザインについて語っていただきました。

最初に柏木氏が登壇し、今から 100 年前、1919 年にドイツのワイマールに創立されたバウハウスの歴史を振り返りました。そしてアウディのデザインについて「独特のグリッドシステムの上に、それをつなぐコンパスのライン、曲線をつくっている。アウディの伝統の中でさまざまなバリエーションが組み立て、伝統を引き継ぎながら面白いデザインをつくらうとしている。その根底にはドイツというものが、バウハウスがあるということ」と解説しました。

続いて和田氏が登壇。Audi Design に 11 年間在籍し、数々のコンセプトカーや市販車のデザインを担当してきた和田氏がアウディに入社したのは 1998 年。奇しくも Audi TT のデビュー年でした。「アウディデザインのスタジオに初めて入り、一番最初に見たクルマが Audi TT の Roadster でした。その向こうには、もう一つのバウハウスデザインの作品ともいえる Audi A2 があり、さらにその奥には、数か月後に発表を控えた Audi TT Coupé のプロトタイプが置かれていました。アウディは私を強烈なインパクトとともに出迎えてくれた。それは次なる時代に向けての挑戦状を投げつけられた感覚だったのです」と当時を振り返りました。

そして二人のトークセッションで、和田氏は初代 Audi TT から現行の 3 代目に受け継がれるフューエルリッドのデザインを例えに、「こういった一つのディテール中にも継承性を持たせ、過去のデザインに敬意をもって接する。デザインとは過去の作品に対する敬意であり、継承である。アウディはそれを実践している会社です」と述べました。

初代 Audi TT のコンセプトカーを忠実に再現した、円をモチーフに直線と組み合わせたシンプルかつ先進的なスタイリングは、当時の自動車デザインに大きな衝撃を与えました。それは bauhaus のデザイン思想を体現するものとして、今なお語り継がれています。

アウディジャパンは、バウハウス 100 周年を機に開催される巡回企画展「開校 100 年 きたれ、バウハウス —造形教育の基礎—」を協賛いたします。この美術展は、新潟市美術館 (2019 年 8 月 3 日 (土) ~9 月 23 日 (月)) を皮切りに、西宮市大谷記念美術館 (2019 年 10 月 12 日 (土) ~12 月 1 日 (日))、高松市美術館 (2020 年 2 月 8 日 (土) ~ 3 月 22 日 (日))、静岡県立美術館 (2020 年 4 月 11 日 (土) ~5 月 31 日 (日))、東京ステーションギャラリー (2020 年 7 月 17 日 (金) ~9 月 6 日 (日)) の、国内 5 カ所の美術館で開催されます。